最先端IT・エレクトロニクス総合展

CEATEC® JAPAN

有力企業の製品・技術

＜順不同＞

エスディエス

エスディエスは好評のFA工場向けコンピューター周辺機器を収納する防塵ラック「まもる君」に続き、積極的に商品開発を展開している各種表示機器の専用什器（大型テレビスタンド、デジタルサイネージスタンド、タブレットスタンド、モニターアーム）の最新モデルを、各シリーズごとに設置した6台のディスプレーモニターを使って紹介する。

大型テレビスタンドは倒れにくい低重心設計＆2重安全構造でありながら簡単組み立て（パーツ8個、ネジ18本）の「モニタワー」を、デジタルサイネージスタンドは利用シーンに合わせて機能を選択できるスタイリッシュ型スタンドやイーゼル型スタンドを、モニターアームはガススプリング採用の「モニターム」Gシリーズとリングで高さ調整可能なLシリーズをそれぞれ展示する。

オータックス

オータックスは産業用スイッチをベースに、プリント基板上に直接実装するデュアル・インライン・パッケージ（DIP）スイッチに注力し、「DIPスイッチのオータックス」として認められてきた。その後、スイッチで培った接点技術を展開し、「接点技術のオータックス」としてエアコン用・FA用端子台、ICソケット、医療用センサー、金属加工関連商品群、ゆるみ防止機能付きネジと製品ラインアップを拡大している。

展示ブースでは従来のスイッチをはじめ、アルミニウム製の大型テレビ用フレームなどの金属加工技術、医療用センサーを搭載した医療機器やヘルスケア関連商品、ゆるみ防止機能付きネジ、現在取り組んでいる新たなスイッチング技術を紹介する。

オムロン

オムロンは「We automate!変わりゆく社会に、あたらしいオートメーションを」をテーマに、産業、生活、社会でさまざまな課題を解決する最新のオートメーション技術を一堂に展示する。人の考え、人・モノの位置や状態など多様な情報から必要なものを選び出し、価値ある情報に変換しながら機械を制御する、同社のコア技術「センシング＆コントロール」が、人々に新たな価値と機会を提供する。

これからの機械には、人の考えや行動に合わせる能力が不可欠。同社はセンシング＆コントロールに「Think」を加え、機械が自ら考え、より賢く価値に変換することに取り組んでいる。同社は制御速度や精度の進化だけでなく、人と機械が最適に調和した豊かな社会づくりの実現に向け、さらなる技術の進化に挑戦していく。

太陽誘電

太陽誘電ブースのキャッチフレーズは「Start! NEXT 太陽誘電が、新たな未来を切り拓きます」。ブースは産業機器ゾーン、カーエレクトロニクスゾーン、民生機器ゾーンの三つに分ける。最先端の技術を駆使したスーパーハイエンド商品やNEXTハイエンド商品、それらを融合したソリューションを提案する。

産業機器ゾーンでは高速可視光通信やワイヤレスセンサーネットワークを活用した離床センサーによる見守りシステムを紹介。カーエレクトロニクスゾーンでは高信頼性商品群に加え、大型リチウムイオンキャパシターを組み合わせたモジュールを、民生機器ゾーンでは世界最小となる01005サイズ（0・10ミリ×0・05ミリ）のコンデンサーやインダクターを参考出展する。

タムラ製作所

タムラ製作所は電子部品、電子化学材料、実装装置、音響・情報機器、発光ダイオード（LED）など、グループとして幅広く手がける製品を展示する。

メーンの展示製品は開発中のゲートドライバーモジュール。SiC−MOSFET（炭化ケイ素製の金属酸化膜半導体電界効果トランジスタ）の低損失動作を可能とする電圧精度を確保。SiC−MOSFET破損の原因となるコモンモードノイズを低減することで、SiC−MOSFETの性能を最大限に引きだすことを可能とした。

そのほか、独自技術によりエコカーや太陽電池、モバイル機器などの幅広い製品に対応可能な化学材料や、フラックス（酸化防止剤）回収能力をアップするとともに消費電力・窒素量の削減を実現した新型ハンダ付け装置、LED製品、温度ヒューズ製品を紹介する。

愛知県

愛知県はアイサンテクノロジー、愛知県立大学、AZAPA、加藤製作所、原田車両設計、プロッツァの6者と共同出展する。同県は13年6月、交通事故の抑止を目的に企業、大学、行政による「自動車安全技術プロジェクトチーム」を設置。自動車安全技術に係る調査や研究開発、実証実験およびそれらの支援を進めている。今回の出展は、その取り組みの一環である。

出展テーマは「世界をアップデートするあいち」。衛星測位による車線認識走行技術、スマートフォンを用いたカフレス血圧推定システム、ドライバーに最適で街と協調する自動車制御技術、360度カメラ搭載の死角レスミラーのほか、電動車両や自動車の各種プレス部品などを展示。県内企業や大学の先進的技術、製品、部品をアピールする。

ローム

ロームは「Change To morrow～未来をデザインするソーシャル・デバイス～」と題し、社会が抱える課題解決に向けた最新技術を紹介する。

得意とするアナログパワー技術を駆使した高効率の各種電源ソリューションのほか、業界をリードする炭化ケイ素（SiC）パワーデバイスの最新ラインアップや、スマートコミュニティー（次世代社会インフラ）に最適な通信技術などを展示する。スマートフォンやウエアラブル端末など、注目されるアイテムのキーデバイスとして世界最小部品「RASMIDシリーズ」や各種センサーも多数紹介する。

また、子会社のラピスセミコンダクタの超低消費マイコンや無線通信技術などの展示・紹介も盛り込み、ロームグループの持つ最先端技術を発信する。

村田製作所

村田製作所はワイヤレスセンサーネットワークの実現に求められる「ワイヤレスソリューション」と「センシングソリューション」を中心に出展する。

ワイヤレスソリューションでは各種通信規格に対応したモジュール製品を紹介する。センシングソリューションでは「ウェアラブル／ヘルスケア」「セキュリティ」「構造物ヘルスモニタリング」がテーマ。さまざまな用途に利用できるセンサーとそれらを応用した製品のデモンストレーションを通じて紹介する。

またインフラからオフィス、家庭に至るまで、人々の暮らしやビジネスを支える電源システムに貢献する製品群を「パワーソリューション」として展示する。

日本航空電子工業

日本航空電子工業は「Technology to Inspire Innovation」をグローバルスローガンに、幅広い分野で活躍するコネクター、タッチパネル、センサーを市場別に展示する。

モバイルコーナーではナノSIMカード用コネクター「SF70／SF72シリーズ」やプリント基板用、外部インターフェース用、液晶表示装置（LCD）インターフェース用などのコネクターを紹介。カーエレクトロニクスコーナーでは電気自動車（EV）急速充電器用コネクター「KW1シリーズ」や車載用コネクター、レゾルバ、電流センサー、静電タッチパネルなどを展示。産機インフラコーナーではFA用ワンタッチロック嵌合（かんごう）方式の丸型防水「JL10シリーズ」などのコネクターを紹介するほか、構造物健全度モニタリング用加速度センサーを参考出品する。

TDK

TDKの出展テーマは「磁性技術をコアに、未来へ」。磁性技術の応用の場として注目される「エネルギー」「EMC」「データストレージ＆センサ」のゾーン別に、新製品や技術を紹介する。

「エネルギーゾーン」ではジスプロシウムフリー・ネオジムマグネットなどの各種モーター用磁石や車載用直流（DC）−DCコンバーターなどの電源、小型から大型までの非接触給電関連製品を紹介する。

「EMCゾーン」ではノイズ測定から対策までのトータル電磁両立性（EMC）ソリューションを披露する。

「データストレージ＆センサゾーン」ではトンネル磁気抵抗（TMR）角度センサーやポジションセンサー、熱アシスト磁気記録ヘッド、磁気抵抗メモリー（MRAM）などを紹介する。

NEXT − 夢を生みだし、未来を描け　www.ceatec.com

世界をアップデートするあいち

Aichi Update the World

CEATEC JAPAN 2014

愛知県共同出展ブース

10.7火 ▶ 11土 10:00-17:00

幕張メッセ ホール1 ライフ&ソサエティ ステージ 1L13

愛知県では、交通事故の抑止を目的として、「自動車安全技術プロジェクトチーム（PT）」を設置し、企業・大学・行政が一丸となって、自動車安全技術の研究開発・実証実験、普及啓発等に取り組んでいます。

このたび、PTの取組の一環として、自動車産業と情報技術産業のさらなる融合を目指し、「モノづくり王国」愛知が誇る企業とともに、出展します。

是非、当ブースにお立ちよりいただき、ナンバーワン、オンリーワンの技術を、お確かめください。

出展企業

●アイサンテクノロジー株式会社/準天頂衛星を利用した衛星測位による車線認識走行実験の成果報告など

●愛知県立大学 情報科学共同研究所/光電容積脈波を用いたカフレス血圧推定技術など

●AZAPA株式会社/ドライバーに最適な街と協調した制御技術など

●株式会社加藤製作所/自動車用ポンプコネクター部品など

●原田車両設計株式会社/360°カメラを搭載した死角レスミラーなど

●株式会社プロッツァ/電動三輪ペコロ

CEATEC JAPAN

愛知県

URL:http://www.pref.aichi.jp/sangyoshinko/ceatec/

お問い合せ先
愛知県産業労働部産業振興課自動車産業グループ
TEL：052-954-6376　E-mail：sangyoshinko@pref.aichi.lg.jp